

第71回関東都県算数・数学教育研究 静岡大会参加報告

県立船橋高等学校 篠崎 健太郎

8月10日(水), JR 東静岡駅前にある, 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」をメイン会場とし, 「第71回関東都県算数・数学教育研究静岡大会」が開催されました。

今回は「未来に生きる思考力・表現力を育む算数・数学教育ー考え合う楽しさを味わいながら, 数学を創造する授業をめざしてー」が大会主題でした。



メイン会場のグランシップ

午前にはグランシップを会場として全体会と記念講演が行われ, 午後からは小学校部会分科会と中学校部会分科会が静岡県立科学技術高等学校で, 高等学校部会分科会がそのままグランシップを会場として, それぞれ行われました。



富士山の看板がお出迎え

1 全体会

最初に, 静岡大会実行委員長・静岡大学熊倉啓之先生よりご挨拶がありました。続いて, 静岡県教育委員長・木苗直秀様, 静岡市教育委員会教育長・高木雅宏様, 日本数学教育学会会長・藤井齊亮様よりご祝辞をいただきました。

最後に, 次回開催県代表として群馬県数学教育研究会会長・江森英世様よりご挨拶がありました。次回は大会名称が変更となり, 「第72回関東甲信静数学教育研究群馬(前橋)大会」として, 平成29年8月22日(火)に群馬県前橋市ベイスシア文化ホールを中心に開催されます。大会主題は「ともに学ぶ算数数学教育の創造」。記念講演は奈良薬師寺の大谷徹瑩師とともに, 「人間を育てる」というテーマで考えていく予定です。



熊倉実行委員長のご挨拶

2 記念講演

演題: 「算数・数学学習の過程とその成果」

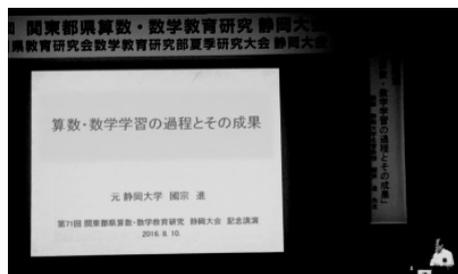
講師: 國宗 進 先生(静岡大学名誉教授)

「算数・数学はわかりやすく教えられたからといってわかるものではない。学習者自身が自ら当面する問題に取り組み, 考え, 解決するという主体的・探求的な活動を通して本当に理解することができる。」

國宗先生自身の著作からの一文ですが, これこそがまさしく, 今話題の「アクティブラーニング」の趣旨に他なりません。しかし, あまりに強調されるため, 形式にとらわれ過

ぎて、本来の趣旨が疎かになるケースもあるとして、改めて求められているキー・コンピテンシーや21世紀型能力、また、そのスキルを身につけるためのアクティブ・ラーニングを、失敗例や効果的な実践例を挙げて解説していただきました。そしてご講演のまとめとして、次のようにお話しされていました。

「昨今の汎用的なスキル等の強調を視野に入れて、算数・数学教育がこれまでも熱心に取り組んできた算数的活動・数学的活動の重視、とりわけ的確な場の設定、数学的な見方や考え方、意欲や態度の検討とその育成等々の成果を踏まえて、前進していきましょう。」



國宗先生のご講演

3 高等学校部会分科会

グランシップの9・10階を会場として、9つの分科会に分かれ、各分科会ではそれぞれ4名の研究発表が行われました。なお、千葉県からは発表が2名、指導助言者1名、司会者1名が分科会の運営に協力しました。内容は次のとおりです。

(1) 発表 I

発表者：三浦徳幸(大原高等学校)

分科会：学習指導法②分科会

テーマ：新入生計算力テストの取り組み

本部会研究委員会で14年間に渡って実施している「計算力テスト」の集計結果と、そこから見える考察、実施校の先生方からの意見・感想などを報告した。

(2) 発表 II

発表者：山中雅史(市立稲毛高等学校)

分科会：学習指導法②分科会

テーマ：考えを深めるためのグループ学習を取り入れた授業実践

一言語活動の充実を目指した

「アクティブ・ラーニング」

日頃の教育活動の中から、生徒の間で質問や説明および議論を行い、議論の内容を文章として書くという能動的な学習「アクティブ・ラーニング」を取り入れる必要があると考え、輪講形式やグループ学習を取り入れた授業の実践を報告した。

(3) 指導助言、司会

「数学 A 分科会」で三木千恵子先生(柏中央高等学校)が指導助言者を、「数学 III, 数学活用, 工業・商業・農業・理数科・その他分科会」で篠崎健太郎(県立船橋高等学校)が司会を、それぞれ務めました。



山中先生の発表

4 都県代表者会議

ホテルアソシア静岡にて、都県代表者会議が行われ、本部会からは、部会長・三木千恵子先生、事務局長・篠崎健太郎の2名が出席いたしました。

大会名称の変更や今後の大会開催県の確認などのいくつかの議題が取り上げられました。なお、千葉県は平成31年が大会開催県となる予定です。